

誰もが活躍・地域担い手養成事業 各市町の状況

市町	高齢者の生活支援等の担い手確保に関する課題	市町が想定する課題解決の方向性
南伊豆町	・ボランティアの高齢化・固定化 ・ボランティア等を始めたいと思っている人がいるが、協力者の不在等により活動に結び付かない人がいる。 ・多世代が交流できる場がない。サロン等をやりたい人はいるが、仲間がいない、ノウハウがない。 ・自主的に集まる場やサロンや老人会等があっても会場まで行く手段がなく参加できない人がいる。	・移住者や若い世代の参加・協力、新たな人材の発掘 ・多世代が交流できる場の創出（年齢、性別、障害の有無等関係なく）
函南町	・生活支援・運転ボランティアの養成を実施しているが、実際の活動までつながっていない。 ・養成したボランティアの活躍の場である組織のメンバーも高齢化、活動者が増えない。 ・地区毎に地域の課題を話し合う勉強会を開催しているが、参加者が固定化し、また各地区の住民力の差が大きく、住民主体の活動まで展開することが難しい。 ・アンケートによれば、「時間と興味がある活動であればやりたい」と回答した方も多く、企画や周知を工夫し、上手くマッチングできれば担い手が増えるのではないか。	・高齢者だけでなく住民同士がつながりあえる地域を目指す。 ・現役世代や子育て世代など多様な主体が参画し、協働して地域を支えていく。

市町	高齢者の生活支援等の担い手確保に関する課題	市町が想定する課題解決の方向性
長泉町	・フォーラムやボランティア養成講座を実施しても参加者が少なく、特に中心的な役割を果たす役員の担い手が不足しており、メンバーの高齢化・固定化が課題となっている。 ・送迎支援に関するニーズは高いが、自家用車を運転して送迎を実施する運転ボランティアの担い手が不足している。 ・生活支援に関しては担い手登録しているボランティア数に比較して依頼が少なく、実際に活動に繋げることができていない担い手が多数存在する。生活支援の他に、活躍の機会を生み出す必要性を感じている。	・多様なボランティア団体と連携を図り、現役世代の参画を促す。 ・次世代を担う若年層の支え合い活動への関心を高める。